

ご安全に！ 基幹労連の工藤です。（13）

第189通常国会閉会にあたって

ご安全に！基幹労連の工藤です。さて、9月27日（日）通常国会としては戦後最長となった第189通常国会が閉会しました。全審議法案等193本のうち103本が可決・確認そして成立しました。全審議法案等の内訳は閣法75本、衆法46本、参法26本、条約12本、予算9本他です。

冒頭に述べました可決・確認・成立した103本のうち、民主党が反対の姿勢を示したものは約20%であり、約80%にあたる83本に関しては賛成の立場でした。民主党は是々非々で本通常国会の各議案に臨んできました。テレビや新聞等のマスコミ報道では、今通常国会における各議案に関して民主党は反対ばかりしている等の報道がなされていますが、事実は全く違います。なかなかすべての議案に関してマスコミが報道するわけでもなく、対立点が浮き彫りになる事は理解できますが、客観的な事実を前に冷静に振り返らなくてはならないと思います。

民主党が反対の意を表明した法案等は、「労働者派遣法改正」などに代表される私たち働く者の仕事や生活を無視した労働法制の改悪法案。また、十分な審議もせず国民の大多数が説明不足であると答えているにもかかわらず強硬に成立を目指した「安全保障関連法案」などがあります。

安倍政権はこれらの法案を成立させるために戦後最長の会期延長を行いました。言い換えると戦後最長の会期延長を行わなければ成立させることができない程、民主党は「理にかなわぬ」、「不透明な内容である」と正面から正々堂々の論陣を張り追い込みました。基幹労連の皆さんにも中央・地方で連合と連携し様々な対応をして頂きました。しかしながら最終的に数の力をまざまざと見せつけられました。我々は今189通常国会で行われたことを決して忘れてはなりません。

左右の全体主義とは対峙し、政権交代可能な「二大政党的政治体制」が必要です。そのためにも来年施行される「第24回参議院議員通常選挙」で私たちの声を、私たちの仕事と生活を代弁する仲間を増やしていく事が大切であり、基幹労連は総力を結集し「とどろき利治」を必ず国政の場に再び送り出さなくてはなりません。全国の働く仲間と連携し「働くことを軸とする安心社会」を構築していきましょう。

以 上

2015年10月2日
日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 工藤 智司